

○清水課長 それでは、皆さん、改めましてこんにちは。

定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第1回宇治田原町総合教育会議を開会させていただきます。

私は、本日の司会を務めます総務部総務課長の清水でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本会議につきましては、宇治田原町審議会等の活性化指針に基づき公開としており、事前に会議開催日時を町ホームページにおいて告知の上、傍聴を希望する方に対して傍聴を認めることとしております。

事前に告知をさせていただきましたが、本日の傍聴希望者がなかったことをご報告させていただきます。

なお、本会議につきましては、後ほどご説明をさせていただきますが、前回同様に会議録を作成し、町ホームページにて公表することを予定しております。また、報道機関による取材等を受けた場合には、会議結果、概要等につきまして情報を提供することとしておりますので、各位におかれましてはご了承いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日の会議は、お手元にお配りしております次第に沿って進めてまいりたいと考えております。

まず、開会に当たりまして、西谷町長よりご挨拶を申し上げます。

○西谷町長 皆さん、改めましてこんにちは。

本日は、平成30年度第1回の総合教育会議のご案内を申し上げましたところ、皆様方には大変公私ご多用のところご出席を賜りまして、まことにありがとうございます。

また、平素は本町の行政推進に、とりわけ教育行政の推進にご指導を賜っておりますことを、この場をおかりいたしまして厚くお礼申し上げますところでございます。

皆様ご承知のとおり、6月18日には午前7時58分に、大阪府北部を中心とした震源地で6弱の地震があり、多くの被害をもたらしたわけでございますけれども、またその上、7月5日から7月8日にかけて日本列島を襲いました梅雨前線では、記録的な大雨を降らしたところでございます。既に7月9日には梅雨明けということで、一転して晴れが続いておるところでございますけれども、豪雨によりまして、京都府北部は特別警戒情報が発令されました。全国各地で大変な被害をもたらしておるところでございます。

本町におきましては、人的な被害はありませんでしたけれども、郷之口高尾線が土砂

崩れにより全面通行禁止ということになっているほか、林道また農地等の崩土があったところがございますけれども、人命にかかわることがなくて、大変安堵しておるところでございますけれども、仮に四国や、また中国地方に降ったあの線状降水帯が本町をまともに襲っていたら、多分、田原川は越水して、役場は浸水していたんではないかなというふうに大変心配をしておったところがございます。

全国で多くの方がお亡くなりになられ、また多くの方が被災されたということでございますけれども、亡くなられた方々のご冥福と被災されました全ての方にお見舞いを申し上げますというふうに思っております。台風8号は中国のほうに行きそうでございますけれども、これから台風シーズンを迎え、特にスーパー台風という猛烈な台風が発生する恐れが、海水の温度によって可能性があるということでございますけれども、今後も防災・減災対策にしっかりと備えてまいりたいというふうに考えておるところでございます。

さて、これまで開催してまいりました本会議におきましては、小中一貫に関し、宇治田原町における現状や宇治田原町で育つ子ども達の未来をよりよいものとするための方策や教育の方向性などについて、教育委員の皆様からご意見を賜ってきたところがございます。また、昨年度の会議では、教育委員会にて議論を重ねていただいた施設一体型整備に向けたスケジュールについて、また町長部局からも財政面での試算検討などについて意見交換をさせていただき、情報共有をさせていただいたところでありまして、その中で本町における教育制度のあり方やまちづくりの観点について十分協議、検討を図りながら進めていくことを確認させていただくと同時に、4月1日付での人事異動での体制整備をもあわせて、これまで確認をさせていただいた課題等の克服に向けて、今後もしっかりと取り組んでまいりたいというふうに思っておるところでございます。

本日におきましても、この総合教育会議の設置趣旨でもあります首長と教育委員会の意思疎通はもとより、教育課題や推進すべき教育施策の方向性等の共有など、より一層連携した教育行政を推進していくための貴重な機会と捉えておりますので、実りあるものにしてまいりたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

今回の総合教育会議における協議事項については、町長部局と教育委員会とのより密接な連携が必要であります。円滑な意見交換を行っていくためにも、総合教育会議のこの司会進行を今回から事務局に任せたいというふうに思っておりますので、どうぞご理解を賜りますとともに、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いを申し上げます。

て、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○清水課長 ありがとうございます。

それでは、本日配付しております資料の確認をお願いしたいと思います。

まず、次第のほうが一枚、その後、次に出席者名簿、こちらが一枚、そして、学校施設整備の考え方に関する資料、A4が2枚、合計4枚でございます。

よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、平成30年4月1日付で人事異動により事務局職員に異動がありましたので、異動者の紹介をさせていただきます。

まず、総務部長の奥谷でございます。

○奥谷総務部長 奥谷でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○清水課長 続きまして、教育部長兼社会教育課長の光嶋でございます。

○光嶋教育部長 光嶋でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○清水課長 学校教育課長の岩井でございます。

○岩井課長 よろしくお願いいいたします。

○清水課長 学校教育課課長補佐の細矢でございます。

○細矢課長補佐 よろしくお願いたします。

○清水課長 以上でございます。

それでは、早速、協議事項に入ってまいりたいと思いますが、西谷町長の挨拶にもありましたように、円滑な意見交換のため、本日の議事の進行は、私、清水が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日の協議事項につきましては、お配りしております資料のとおり（1）学校施設整備の考え方について、（2）その他となっております。

まず、1つ目の議題、学校施設整備の考え方について説明を願います。

光嶋部長、お願いします。

○光嶋教育部長 それでは、協議事項の1番目でございます学校施設整備の考え方についての確認ということで、ご説明を申し上げたいというふうに思います。

教育委員の先生方には、今日まで小中一貫教育の内容に関しまして、いろいろご議論をいただいておりますので、こういった点については二度、三度といった話になる部分もあるかと思っておりますけれども、どうぞよろしくお願いしたいと存じます。

まず、小中一貫教育を推進するに当たって、やはり課題となっておりましたのが教育

環境を取り巻く現状ということで、昔とは異なりまして一時期学校の荒廃が見られたようなこともございましたし、家庭の多様化、また集団生活に不適應、学力の低下、子どもの持つ不安感の増大などがございまして、これを何とかせないかんというようなことが町の中でも大きなテーマとなったことが、小中一貫教育を進めるに当たってのスタートの部分であったのではないかというふうに思います。

こうしたことで、目指すべき3つの子ども像を掲げまして、これを育成すると。簡単に言いますと、行儀のよい賢い子をたくさん育てて、町のために頑張ってもらおうということになろうかというふうに思うんでございますけれども、そういったことが中1ギャップをなくして、9年間を通じた連続性を確保して進めていくということがもう既にこれは決まっておる事項でございます。

こうした中、施設の一体型で進めるか、施設の分離型で進めるかということの判断を余儀なくされるわけでございますけれども、その判断に当たりましては、もう一枚のペーパー、横長の表のほうにざっくりとですがまとめさせていただきました。

まず、施設一体型でいいますと、2つのパターンがあるだろうと。維孝館中学校に統合小学校を併設するそういうパターンと、新たな場所に敷地移転し、小・中学校を建設するパターン、そして、施設分離型として現行2小学校施設を利用したままやると。大きく分けて施設一体型、分離型、それぞれこういう形があるのではないかというふうに考えるところでございます。

特に内容に関しましてですが、概要の中で申し上げますと、中学校の敷地の中、もしくは隣接に小学校を建設するということになりますと、概ね中学校と同程度の校舎設備が要るのではないかと。それと住民グラウンドの移転、これが全面移転か、部分移転かはあるんですが、既存の小学校施設等を活用した形で転用しなくてはならないだろう。費用としましては、これはもう概算の数字になりますが、学校建設費に15億円、グラウンドの整備に2億円程度は必要であろうというふうに試算をしたところでございます。

ちょっと財源内訳についてでございますが、これは私のミスがございまして「国庫対象額の2/3」と書いてございますが、これ「2分の1」に訂正をお願いしたいと存じます。これに伴いまして、国庫負担金が8億円から6億円、起債が4億円から6億円ということで訂正をお願いしたいと存じます。これは15億円の事業費に対しまして、国庫対象額が12億円程度とした場合の試算でございます。それでまいりますと、校舎のほうについては、国庫は12億円が対象になり、単費が3億円、そしてグラウンドの整備に2億円、これは単費で補助制度がございませんので、都合17億円程度の費用が必

要になろうというふうに思います。ここも国庫が8億円から6億円、起債が4億円から6億円ということで訂正でございます。

ちなみに、今後の跡地活用ということになりますと、既存2小学校が「空き」となりますために、総合的な跡地利用の検討が必要になろうと。利用目的にもよりますけれども、改修利用するとすれば、1校当たり数億円、解体についても1億円から2億円程度の費用が必要になってくるだろうというふうに試算をすることでございます。

次に、新たな場所に敷地移転をして、小・中学校を建設するという事になりますと、現在とは異なる場所に用地を確保して建築をしなければならないと。場所及び用地の問題としましては、概ね6,000坪、2ヘクタールぐらいの土地が要るのではないかと。いう試算をしております。校舎については小・中学校2つ分が要るという事で掛ける2にしております。

用地費については、坪当たりになりますけれども、用地費と造成費を合わせまして坪当たり15万円、6,000坪で9億円の費用が必要になってこようかと思っております。建物については15億円掛ける2で30億円、39億円程度の総額になってございます。まず、用地に関しましては補助制度がございませんので、これは全額単費ということになります。起債の借入れは可能でございますので、借金することは一時的には可能なんですけど、単費という事になります。

次に、国庫対象額もこれ3分の2と書いてございますが、2分の1でございまして、これに合わせまして国庫負担金も16億円が12億円、起債は8億円が12億円に訂正をさせていただきます。6億円が単費ということになってございます。これでいきますと、39億円の内訳としましては、国庫が12億円、起債が12億円、単費が15億円という事になってございます。

こちらに関しましては、3つの小・中学校が「空き」となりますために、また総合的な土地利用対策が必要になりますが、これも先ほどと同様に改修すれば1校当たり数億円、解体については1億円か2億円ぐらいかかるだろうということで、「空き」ができましたら用地の売却等も当然視野には入ると思うんですが、実際にどれだけ売れるかということはなかなか今のご時勢からしますとちょっと難しい問題もございまして、特にその件については、ここには掲げておりません。

次に、施設分離型ということになりますと、これは現行2小学校をそのまま利用するという形になりますが、2小学校とも建築されましてからもう二十数年が経過するという事になりますので、大規模改修をしなければなりません。それと児童を中学校に移動

させる手段及び費用といったものが必要になってこようかと。これは一例になりますが、大型バスを購入し、毎年そのバスを運行するコストが必要になってこようかというふうに思います。

大規模改修の費用ですが、これ1校当たり5億円程度はかかるだろうと、2校で10億円でございます。バスの購入については、1台当たり2,000万円、管理コストについては1台当たり年間600万円ほど、これは人件費と燃料費、管理メンテナンスに係る費用がこれぐらいかかるだろうというふうに思っております。

それで、まず大規模改修のほうでございますが、これは国庫対象額の3分の1が国庫負担金ということで、一応国庫対象額を3億円ということで見ておりました。1億円掛ける2ということで2億円が国庫負担金、起債がその残額で4億円、単費が4億円ということにしております。

次に、バスの購入費については、今のところ補助制度というものがございませんので、バスの購入費と運行管理費は単費になるという事でございます。これでいきますと合計で10億4,000万円程が負担になるという事でございますが、これについては米印の1ということで、運行管理コストは含んでおりません。毎年1,200万円ずつぐらいがずっとかかってくるだろうというふうに思っております。

なお、現行施設を利用しまするので、跡地利用については空欄としてございます。

これが施設を整備するに当たって、これぐらいの費用が必要になるだろうという目安という事で、事務方のほうで検討するときの資料といたしました。

次に、戻っていただきまして、施設一体型のメリット、デメリットという事については、これは種々今までから出ておりました書ききれないという事もありますので、あえて書いておりませんけれども、例えば、学校を一つにする事によって複数学級が維持できるといったようなメリットもある反面、学校が地域からなくなっちゃうというようなデメリットもあるといった事が相反する形で、メリット、デメリットという形で出てくるんだろうなというふうに思っております。

その中で、やはり施設一体型の確定的な課題としましては、仮に1カ所に小学校を集約した場合には、通学をどうするのかというのが、非常にやはり大きな関心事としては出てくるのではないだろうかというふうに考えてございます。これについては、現行の場所であれば特に利用は出来るんですが、路線バスを活用した形でスクールバスを代替出来ますし、またそれでも届かないところについては、スクールバスを運行するなりして、通学の足を確保する事ができるだろうというふうに考えております。

次に、施設分離型の確定的な課題としては、これは非常に大きな問題というふうに捉まえておりますが、移動の時間をどう確保するのかという事でございます。バスをそれぞれ各学校に1台ずつ確保したとしても、維孝館中学校に移動する際に、教室から出てバスに乗って、こちらに来て、また降りるという事になりますと、片道30分程度の時間がどうしても必要と、往復で1時間程度の時間が潰れる事になりますので、となりますと、授業時間を削るか、さらに小学校の6時間授業を7時間授業とか、8時間授業という形でコマをとってやらないと、学力充実といった事に非常に矛盾する対応になってしまうという事になるのではないかとこのように考えるところです。

そういう事から致しますと、やはり施設分離型というのは、考え方の中では当然あるというふうに今も思っておりますが、私どもの学校の配置されている位置関係、地理関係から言うと、なかなか施設分離型における小中一貫教育の取り組みというのは非常に厳しいのではないかとこのように一つの考え方として思っております。

また、先ほどの比較検討資料の金額を見ていただきましても、これは施設移転という事になりますと、用地費に莫大な費用がかかるのでちょっと横へ置きまして、仮に維孝館中学校を利用した形という事になりますと、合計で単費負担が5億円と4億4千万ぐらいという事で、現行施設を利用するにしても、そんなに単費負担としては変わらないという面もあろうかというふうに考えておるところでございます。

こうした事から、現状としてはやはりかねがねお決めいただいております施設一体型というのが理にかなっているというふうな事が言えるのではないかとこのように考えるところでございます。

そして、あと並行して検討すべき課題ということになりますと、今これはもう我が町だけではなく、全国的に少子化の進行が著しくなっております。また、転出等もございます事から、各学年における2クラス以上の維持がもう出来なくなると。今、現に単級の学校もあるわけでございますが、これがますます顕著になっていくと。

それと、それぞれ2校を存続する場合には、小規模学校にならざるを得ないということになるんですが、その小規模学校の是非について、少人数のよい面、悪い面、これはそれぞれあると思うんですが、そういった事についても課題として考えていかなきゃならない。

それともう一つは、現在ある2つの小学校の歴史と伝統ということで、それぞれ卒業された母校のあり方、特に地域アイデンティティーのシンボルになるような位置づけとして学校があるというふうにご考えてございます。これは一例でございますが、例えば奥

山田小学校がそうであったように、地域から学校がなくなる事についての抵抗感、これはかなりの方がお持ちであろうというのは否定いたしません。ただ、そういった事にとられ過ぎますと、将来的には消滅の可能性があるものを何とかしていかなければならないというのが当然であろうかと思えます。そういった中には、施設の有効的な利用といったものも含めて考えなければならないというふうに思いますが、こういった事を踏まえまして、余力のある内に何らかの対策を講じなければならないということで、教育的観点からの判断とまちづくり的観点からの判断、こうしたことをもとに先ほどの施設一体型ということも考えていかなきゃならない事に結びつくのではないかとこのように考えてございます。

こういった事をもとに、やはり今後については、いつまでも同じ議論を繰り返すという事は全く意味のなさない事にもなるので、やはり今後はそういう施設の在り方、位置等も含めましたようなご議論をいただく事が総合教育会議の中ではお願いすべき内容になるのではないかとこのように事務局としては考えるところでございます。

走った説明で申し訳なかったんですけども、以上で学校施設整備の考え方についてのご報告とさせていただきます。ありがとうございます。

○清水課長 ありがとうございます。

ただいま学校施設整備の考え方ということで説明がございましたが、こちらにつきまして、何かご意見等がございましたら、何なりとよろしくお願ひしたいと思えます。どなたからでも結構ですので、よろしくお願ひいたします。

○西谷町長 忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。ほんまに思っはる事を言うてくれはったら、僕は絶対いいと思えますけれども。

この学校荒廃っていつごろの話ですか。

○光嶋教育部長 10年ちょっと前ぐらいですね。特に、もうちょっと前かもしれません、中学校で跡形もないようなトイレの扉の壊し方をされたりとか。

○西谷町長 そんなあったのか。平成9年、10年。うちの子どものころが。

○光嶋教育部長 あの頃が一番ひどかったです。

○西谷町長 そんなことあった。

○光嶋教育部長 僕は財政やっていたので、生徒に言うて弁償させてくださいと教育委員会に言うたんですけども、それはならんかったですけども、やっぱりちょっとそういう。どなたが悪いということやなしに、時代としてそういう時代やったんかもしれませんが、やっぱりそういった事があって、やっぱりこれではいかんというのが、小中一

貫教育を進める上での起点になっているんだろうなというふうには考えております。

○大嶋委員 今の補足ということで言いますと、結局従来でいきますと、中学校に入ったときに、2小学校から来るわけですが、1学期は緊張の中でということになるわけですね。2学期ぐらいからやっぱり友達関係が変わってきて、小学校のときの友達関係から変わっていく。その中で色んな事、昔で言うたら非行的な、反社会的な事が起こったりとか、今では逆に不登校になったりとか、そういうような事が起こるようなことがあるわけですね。それはやっぱりどうしても小学校から変わってきて、人間関係が上手にできなかったというような時に起こってくるというところがあるので、先ほどからあります小中一貫ですと、そのところは未然に防ぐ事が出来るんじゃないか。大人、教職員であったり、そういうようなものが把握していくことによって手だてが打ちやすいんじゃないかなというところは、前のところで会議の中等で出てきておりました。

○西谷町長 前は中学校自身が、中学生自身が案外、多分うちの長男の時とか、長男よりも1個上ぐらいの年は結構ぐだぐだしておって、そういう中学生を見ていると、小学校の親御さんは一緒にしたら見習いおると、小学校の時代からという、そういう不安を持たはったんですけれども、今は中学校も完全に落ちついてしっかり生徒たちもやっているから、案外そういうことはないかなと。

○大嶋委員 具体的にはありませんけれども、例えば中3生とか、中2生が小学校1年のところに読み聞かせで行ったり、または家庭科の実習ということで保育実習的なもので小さい子と関わるというところがあるんですけれども、やんちゃな子でも、やっぱり小さい子には丁寧に関わっていくというような事がありますので、逆に教育効果を引き出すような工夫をしてあげたら、そういう事はなくなるんじゃないかなと。例えば小学校でやっておられる6年生が1年生を面倒見るようなシステムをしてはりますけれども、それを今度中学生とそういう子とか、こういう工夫をしていくことによってそういう事は今度逆に良くなっていく、ああいう先輩になりたいなというところが出てくることは可能性があるのかな。

○西谷町長 施設一体型は、小中一貫の見える化という事で、例えば両小学校の高学年の子が中学校に来て一緒に勉強しましょうというふうな事も、議会の中でも、そんなご意見が出ていて、そういう小中一貫の見える化を徐々にしていってどうやろう。ただ、例えば週一に絶対それをしろというふうな意味やなくて、やっぱり小学生が中学校に来て、中学校の雰囲気というものに慣れていく。ほんで、中学生もいまだ小学校のほうにも行っているわけ、色んな事をして、物すごくいい関係になっているということは、例

えば授業時間のスケジュールとして、教育の方の現場では確かにしんどいということ、これを定期的にやろうとしんどいじゃないですか。せやけど、別に定期的でなくても、僕は1学期に1回ずつであってもいいと思うんですけども、そういう程度でその小・中が見える化してもらう事によって、住民さんも、みんなにも理解してもらえる。一体何をしようとしているのかをわかってもらえるのかなど、僕はそういうふうな気はするんですけども、ただ定期的に1週間に1回そうしましようと言うたら、こんなちょっと無理な話なんですよね。倍とられますから。それはもう教育委員会の言うとおりのので、そういうふうなんじゃなくて、もう少し緩い感じ。そういうふうなものをやっていくのも一つの方法や。

連携と言われるんじゃない。そういう意味で言うてるんじゃないですよ。小中一貫で一体校にする順序としてそういう事も取り組んでいった方がいいという、今やられているのは大変いい事じゃないですか。中学校が小学校に行って、マラソン一つにしてもそうやし、コーラスにしてもそうやし、逆のパターンで小学校が文化センターに来て、小学生があれを聞く。これもいいパターン。あれはほんまに僕はいい事やと思いますねん。それはそれで続けながらも、こういう計画を進めていくと、同時並行していく。そういう事によって、皆さんも理解して、何をしようとして、どういう学校をつくるんや。

僕なんか一番思うのは、やっぱりこれから少子化もありますし、人口減少もある中で、やっぱり選んでいただける維孝館中学校に、維孝館学園というものになってくれたら僕は一番最高やなというふうに思っているんです。それがそういうイメージが出来て、例えばそういう子ども達が、維孝館学園で育った子が、京都府内なり、全国の高校に散らばっていくというふうなイメージが一番いいなと。せやから、逆に言うたら、宇治田原で子どもを育てて維孝館学園にやりたいと思われるような学校に仕上げていくというのが、僕の最後の目標かなという気はします。それは色んな事をクリア、財政面でもクリアせな、色んな事が出てきますけれども、最終的にはそれがすごいいい事につながっていくんかなと、これはまちづくりの観点からも言えるなと、それで、うちの子どもが成長している中でも言えるなという、これはそういう感覚がありますね。

○田中職務代理 分離型小学校のところで存続するというのは、前回既に論議して、統合しましようというところへもう結論として行っていると思うので、今これを蒸し返すことは止めた方がいいんじゃないかなと思うんですけども、小中一貫教育で今言われている中で、私が一番期待しているのは、保護者がいい高校へ行って、いい大学に行きたいと

いう期待にも応えられる中学校をつくる必要があるんじゃないかなと一つ思っています。私が望む子どもの姿というのは必ずしもそうじゃないんですが、やはり保護者の期待に応える教育も必要ではないかなと。そのためには中学校の後期なんかでは、かなり重点的なそういう受験のための学習システムをつくる必要があるんじゃないかなと思っはいるんですが、私は小学校の教職経験から、10歳の壁とよく言うんですが、小学校1年、2年の子と5、6年の子は全然違うんですね。1、2年の子は、先生が右を向きなさいと言ったら、すばっと右を向きます。5、6年になると、右向きなさいと言って、何で先生はそんな指示が勝手にできるんやと。先生は職員室でお菓子食べているのに、何でお菓子を持ってきたらあかんと言うんや。自我が出来てくると、批判的にもなりますし、特に友達関係を多くつくるのが9歳、10歳からであるので、そういう意味では発達に合わせて、小学校低学年では基礎的な生活習慣をきちんと身につけさせるという、どちらかという押しつけ的な。それで、10歳から中学校1年ぐらいまでは、ギャングエイジと言われますけれども、友達と多くの摩擦の中で、人との接し方を学んでほしいと。そして、中学校の後期になると、自分の中を見つめる、深く自分を見つめられるようなそういう学習と、それから進学へ向けたかなり厳しい学習というふうに、今までの6・3制とちょっと分けたシステムを取り入れた方が、もともとの発達に即しているんじゃないかと思うので、ここで言う、分離というのか、一体というのかしれませんが、隣り合った場所での9年間指導を進めることが、小中一貫教育としての意味合いじゃないかなと私は思っています。

前回出ていた、じゃ、場所とか、いつまでにそのことを進めるのかという事については、これは、私は教育委員として立案する力がありませんので、その辺は町長部局なり、事務局のほうに委ねて、その案で進めていただけたら結構だと思うんですが、そのとき出ていた中で、これは外してはいけないなと思うのは、位置を決めるのに、まず住民の意見を十分尊重して進めましょうという話が出ていたんですが、それを外さないでやっていただきたいという事と、それからもう一つ、これは前教育長さんとお話しした時に、小学校が統合されるというふうに2つの小学校が合わさっても、今と同じ小学校を新たに作るだけやったら、本当に町民はがっかりする。やっぱり、ああ、こんな学校に行かせたいなと思うような、そういう学校にしてほしい。そのためには情報とか、外国語活動とか、環境とか、そういうものに対応した内容をやっぱり十分検討してつけ加えると、概算で、今までの学校はこのぐらいで出来たからそのぐらいで出来るというのはちょっと合わなくなるんじゃないかなと。例えば情報システムとかも、各人持ちのコンピ

ュータールームを2学年ぐらいは使えるようにするというようになると、やはりそれなりの費用が要りますし、今、無線だからいいんですが、昔だと教室は二重底になっていて、線を全部下に張るとすると、床下に配線をすると、いろんな設備が要るか。

前回、どこでしたかね。府の清明高校やったかな。いや、その前に府の地教委研修会か何かあった時に、要するに業者が来ていたんです。いろんな府県の地経連の研修ですね。それを見ていたら、こんな事が今、出来るんだという事でびっくりしたんですが、それらを入れるとすると非常に費用がかかるという話をそのときされていました。それらも踏まえていこうと思うと、私の今の頭だけではちょっと不十分なので、ぜひ専門的な町内のそういう方を入れた委員会を立ち上げて進めていけるような進め方をしてほしいなと思っています。とりあえず。

○増田教育長 先ほどの話の部分のところで、田中委員がおっしゃっていただいたとおり、小中一貫教育については、手法については8割の住民の方がご理解いただいている中身だと思っていますので、実際に子ども達の変容という、児童生徒の変容という面においても、実績として証明されているところがあります。それを一番担ってきたのは何かというと、住民の方のご理解であり、また教職員のほうの理解だろうと思っています。25年9月のアンケートの時に、教職員が9年間を見通して、一体となって指導していくという事に対して、9割弱の教員がそれに対して賛成であった。そこまで教職員の意識が実際に本町の教職員は優秀やと僕は思っているんですけども、宇治田原のために、宇治田原の子ども達のためによく頑張ってくれている。一生懸命になって、一体になってやってくれているだろうと僕は思っています。そこがキーじゃないかなと思っています。

あと町長のほうのご指摘のところで、住民の方の理解を得ること。私もやっぱりそのための広報活動であったり、場所、住民の方の地域に入っただけの説明というのをしていけないといけない。それを考えていく時に、今必要となってきたのは、まずは場所かなということを感じておるところです。そういう中で、先ほどの部長の説明のほうにもありましたけれども、新たな土地を購入するという方法ではなくて、あるものは、うちはもう維孝館中学校の横に住民グラウンドという町有地がございますし、そういう面という、それをうまく使って、そして、よりすばらしい教育環境と教育設備と、宇治田原町の教育はここができるというような設備環境をやっぱりつくっていくこと、その事が一つ重要じゃないかなというふうに考えておるところです。

場所については、逆に教育委員の皆さん方のご意見もご忌憚ないところでお出しいた

だけたらうれしいなというふうに思います。それをもって、住民の方に、今までの29年3月の教育委員会として出しました隣接型をとる施設一体型の方向性についての説明であったり、ここでこのような教育をしていきたいというところの話であったり、やっぱり住民の方のご意見をお聞きする中で確定していくことができたらいいなということで思っているところです。

○清水課長 今、教育長のほうから場所の問題等の話もあったんですけども、そのあたり教育委員さんのほうでどのようにお考えかというの、もしよろしければお話しただければと思いますけれども。

○山本委員 今、教育長が言われたように、位置を決めることは非常に大切な事だと思っておりますけれども、それと並行して既存の施設の利活用、こういうものをどういうふうに検討していくべきかなと思っております。地域創生とまちづくりという方向性が今言われている中で、人づくりは教育に課せられた重要な柱であるというものでございますので、その根本がやはりまちづくりだと。まちづくりと人づくりは非常に相まっていると思いますので、その辺をあわせ持って検討していただきたいなと思っております。

○清水課長 杉野委員さんはどうでしょうか。

○杉野委員 位置につきましては、この検討資料を見ている中でも、やはり今の維孝館中学校に隣接するような形が私はいいと思うんですが、私の考え方としては、隣接というよりもむしろつなげて一体型がいいのではないかと考えています。といいますのは、中学生も、小学生も同じように質の高い教育を受けてもらいたいと思っておりますが、例えば小学校の音楽室と中学校の音楽室ではやはり違うと思うので、できたら一緒に使えるような感じでやったら、例えば小学校の子でも楽器が吹ける、一緒にクラブまではできなくても、楽器を触ったりもできるとか、家庭科室でもそうなんですが、調理器具一つとっても、小学校の家庭科室と中学校の家庭科室では随分大きさも違いますし、使っている調理器具も違うと思いますので、やはり少しでも小学生の頃から質の高いものに触れる機会が多い方がなお一層子ども達は成長していくのではないかなと考えています。

あともう一つ、子ども達が維孝館学園の仲間として、自分たちは維孝館学園で育ったということを自覚しようと思ったら、やはり隣同士の学校ではなくて、1校でいるほうがもっと絆は深まるのではないかなと思います。それで、出来るかどうかはわかりませんが、例えば、今は給食を各クラスで食べていますけれども、食堂をつくって、みんなで食べられるような感じでもいいのではないかなと思います。

あと色々な教室がありますけれども、図書室であったりとか、技術の教室があったりとかしますけれども、そういったのも小学校の頃から触れることによって、また学力だけではなくて、何か刺激されるものがあるのではないかと考えていますので、もし財源的にどうかはわかりませんが、その土地の大きさプラスお金も出るのであれば、維孝館中学校の施設とつなげた形でつくっていただけるように考えていただけたらうれしいかなと思っています。

○清水課長 ありがとうございます。

色々ご意見をいただいているんですけれども、ちょっと私は違う意見ですよということもあれば、また委員さんのほうからご意見をいただければと思うんですけれども。

○光嶋教育部長 先ほどより、先生方からいただいておりますご意見に対しまして、事務局としての考え方なり補足をさせていただきますと、田中先生がおっしゃっていただきました位置決めに関しての住民理解をどのように進めるかという事に関しましては、正直申し上げまして、今日まで一般の方向けにこのような内容の事というのは殆ど出ておらないと。したがって、中には分離がいいんじゃないかという住民の方も多々いらっしゃる。そういう事からすると、蒸し返すという事ではなしに、やはり一定決まった事ではあるんですが、あなたたちのおっしゃっている事については、こういう不合理と言うとちょっと言い方がきつ過ぎるかもわかりませんが、マイナス面が大きいんですよといった事も含めて、最終的にこうなりましたといった説明も必要ではないかというふうに考えております。

したがって、今回、議論をもう一度1からではなしに、そういった事を補足するためにもちょっとこういう資料をつくらせていただいたんですが、これに関しましては田中先生がおっしゃっていただいているような方向性の中で進めていきたいというふうに思っております。

次に、山本先生のおっしゃっていただいた現施設の在り方という事については、これ、私のまとめましたペーパーの中にも母校の在り方、地域アイデンティティーのシンボルといったような事を記させていただいておるんですが、これはやはり思い入れの強いものという認識がございます。今現在、私どもの役場庁舎の建設に絡みまして、公共施設をどうするかという検討を進めております。本来であれば学校施設の結論が出てから、学校施設、現行施設の利活用についての考え方をまとめるのが本論ではあるんですが、それに先立って、もう一緒に検討しようじゃないかということで、行政内部ではそういう認識の意思統一がされております。これに関しましては、本日は、同席はしてお

りませんけれども、企画財政課が公有財産の管理等の担当課でございますので、そういったところを中心に、現学校がなくなったとしても、地域の方に支持していただけるような公共施設の在り方というものを当然お出ししないと、一方的になくなっちゃうじゃないのという事の拒絶反応も強くなるんだろうなという思いは抱いておりますので、その点はトータル的な考え方をしていきたいというふうに考えております。

次に、杉野先生のおっしゃっていただいた維孝館中学校の施設と真の意味での一体、これは非常にコスト的なことで言いますと、ご指摘のように中学校の規模からしますと、今の生徒数がかかなり少なくなってきておりますので、空いている教室、特別教室も普通教室も含めて結構ございます。そういったものをうまく利活用することで、小学校施設の負担を減らしてやってやるといった事も当然やっぱり財政サイドとしては指摘が出てまいりますので、仮に施設を1カ所にまとめてしまおうと、本当の意味での一体化をしようという事が出来るのであれば、それに越したことはない。ただ、今現在で言いますと、事務局的にそこまで話を進めちゃうと、誰が決めてんという話になってしまいますので、あえてその事については言及を致しておりませんが、方向としてはやっぱりそれが色々な面から考えても望ましいのではないかというふうに思うところです。

そういった事も含めまして、よりその施設として充実したものに出来るようになれば、田中先生のおっしゃっていただいた9年間の中でのいろんな課題、そういった事の克服にもつながると思いますし、これが、町長が先ほどより申しておられます、ここの学校に行きたいんだというような学校づくりにつなげていけるのではないかと。これは近隣の市町を見ましても、余りにこういう動きが少ないのには、これは私の個人的な意見で恐縮なんですけど、やはりそういうタイミングにない、そういう土地がない、そういう資金がないという、そういった色々な課題があって、なかなか進んでおらないんだろうなと。それが宇治田原町の場合は、維孝館中学校の横に住民グラウンドがあるじゃないかと。そういう色々な条件が重なり合って、非常にいいタイミング、いいチャンスがあるのではないかというふうに考えておりますので、そのところについてはネガティブな話ではなしに、もっと前向きに子どもを育てるという観点から考えると、やはりここで言うところの維孝館中学校を核とした施設の在り方、そうやってしまうと位置決めになっちゃうことにはなるんですが、そういった事が肝要ではなかろうかというふうに事務局としては考えてございます。そういった方向で、さらにご意見等賜ればというふうに思いますので、よろしくお願いを致します。

○大嶋委員 先ほど田中委員のほうから少し出たこと、それから町長のほうから出たこと

で、もう先進的には色々なパターンで実践されている例があって、例えば6年生を中学校の学生と一緒に同じように教育活動するというようなところも京都市内にはありますし、9年間の割り振りで、4・3・2という割り方で、中2、中3の進路を中心にしながらも焦点化して指導していく。それに今度、小学校5年、6年、中1というのを括りにして、教育活動をやっていくというような、それから、1、2、3、4年はそこで一固まりにして、1年生の面倒を4年生が見るとかいう、新たな何かそういう教育システムをつくりながらやっていくとか、いろんな形が考えられていくと思います。そういうようなものを決めていく事が大事かなと思います。

それと、その教育活動をするのに、宇治田原の子は、やっぱり交通の便という少し負い目がありますので、以前から僕の思いとしては、情動的にはやはりいつでもつながっている、いつでも行けるぞという事で、全国レベルになるような感じで、そういうような事が出来る校舎とかそういうようなものでもいいのかなと思いますし、何か全国的に誇れるというか、ポイントになるようなものでやっていく事が大事かなというふうに思います。

特に思うのは、やっぱりそういうITの問題点と、卒業、やっぱり進路の部分で宇治田原の子というのは課題というか、出て行って、そして、まちづくりで言ったら、その人材に帰ってきてもらいたいという、こういう事を願って教育活動をしていくと思うので、それで言いますと、ここにちょうど目指す子ども像の中で、ふるさとを誇りに持つとかそういうようなことがありますし、それをもってそういう子を育てる事によって帰ってくる可能性というのをつくり出していくというか、そういうような教育活動をしていく必要があるのかなと。まずはそういう区切りの形でどういう教育活動をしていくのかということと、それとキーとなるもの、それがまちづくりの観点とかその辺のところ相まった形にしていかないといけないのかな。だから、この施設問題がある程度、目途が出てきたら、次にそういう制度的なものをして、そこを今度、教育活動ができるような施設の中の配置といいますか、そういうような事も必要になってくるのかなというふうに思います。

先進的地域に行ったところに、小・中がある場所に、小学校があって、中学校があって、間に共通の施設があるというか、そういう形のところもあります。結構そういう、やっぱり小学生と中学生の教室を隣同士という事はなくて、ちょっと間を置いてあって、それでもいつでも交流ができるような形で、その共通部分で色々な交流をするようなプログラムをつくっていく。そういうような形でやられているところが多かったかなと思

います。

○光嶋教育部長 今おっしゃっていただいた制度的な問題ですね。そういう4・3・2で取り組むにしても、施設がやっぱり余りに離れちゃうとなかなか難しくなるため、なので、前提としては、杉野先生がおっしゃっていただいたようなほぼほぼ一体、中の設備はどうするかというのは、これはまだ先の話として、やはりよりよい小中一貫を進めるということ言えば、今の施設の在り方、場所的な問題については、詰め将棋みたいな話になるんですが、おのずとやっぱり目指すところというのは、もう一体型にするならもう今の維孝館中学校を利用して何とかすべきじゃないかというのが答えとしては出てくるんじゃないかというふうには思うんですけども、ただそれがいかんせん余りに事務局的に進めちゃうと、どうしてもやっぱりアレルギーが出る部分がありますので、その辺はちょっとご容赦願うとしても、方向としては、各先生方のお考えはそういうのであれば、必然的に事務方としては、施設整備の在り方は、現行施設を活用した事が基本だよという形で進めさせていただくほうがいいのではないかというふうには考える次第です。

○田中職務代理 以前、住民の方と話した時に、小中一貫と言っているけれども、結局学校を1つにして、2つの経費がかかるから、要するに学校統合したいんでしょうという言い方をされたことがある。同じものをつくったら、それはそういう論は当たってしまうんですね。そのためには、こんなすばらしい学校ができるんですよという夢を語らなければ、場所にしても、統合にしても、住民の方はなかなか納得してくれないみたいな。制度の話がちょっと今出ましたけれども、ある程度こんな学校ができるんだという夢がなかったら、なかなか理解してもらえないと思います。私も聞いているのは、学校統合するのは経費の問題でしょうという話を聞いた事がありますので、小中一貫教育はそのためにやりはったんですかという話があって、そういう考え方をして見るんだなと思いました。

それから、もう一点は、施策を組んだら、小中一貫教育をすると、校舎を一つにしたと、こういう効果があったという事を目がけてやるので、効果のない施策というのは私は要らないと思っている。すると、評価項目をやっぱりつくっておいて、それも反証可能性というんですけども、それは出来たとか、出来なかったとか、数値目標と近いんですけども、大変子ども達はよく発表するようになって、おとなしくなりましたというようなことではなくて、例えば、卒業生のうち大学へは何%が行くようになったというような数字とか、保護者からアンケートをとった時に、大変良かったという評価が、

同じ項目でも70%とれるようにとか、そういう数値か何か、とにかく出来たとか、出来なかったとかはっきりするような評価項目を持った目標を設定した方がいいかなと思っています。

以上です。

○山本委員 ちょっと話が元に戻るかもしれませんが、基本は子ども達がすばらしい教育を受けられる施設ということだと思います。その中で、小中一貫教育がより進んで、学校の力が発揮できる施設であり、なおかつ学校教育を進めるべき地域と家庭と学校が一体となる。そして、新しい時代というか、これから迎える時代の教育、それと地域の方向性、まちづくりができるような施設であってほしいなと私は考えているんですけども、その根本的なものというか、考え方の一つとして学校のゾーニングが非常に大切だと思っています。世代間交流、社会経験を通して人間関係を身近にするもの、やはりそれが隣・近所やと思うんです。その隣・近所と一体となった社会を実感できるゾーン、こういうものが一つの学校施設の中にあるものがないかなと思っておるんですけども、その辺は私の個人的な話なので、ちょっと参考にさせていただければと思っています。

○増田教育長 やっぱ一番これからの宇治田原町の教育、こういうものをつくっていきますよ、していきますよという事をご説明するのに、具体的なイメージがないと組み立てが出来にくいと私自身は思っています。だから、位置を決める事の本案を持つことが大切であろうというふうに考えています。そういう面でいうと、今の維孝館中学校のところについては、新制中学校として田原、宇治田原両村の組合会議ということで、実は政治会議の議題として審議を重ねた回数が37回です。維孝館中学校の位置についてという正式議題として審議されたのが37回と。それほど実は大きな問題、だからこそ田中委員がおっしゃっているのは、場所についての住民の方のご意見が必要だと。その時に原案、たたき台を持たずにご説明することは出来かねるのではないかと私は思っています。その時にたたき台として、教育委員会として、また町長部局として、今の方向性としてはこういう事で、場所でどうなんだと。財政的な問題についても、人によっては、場合によっては、町有地の活用という点で言うと、田原小学校、宇治田原小学校に中学校を新たな土地を買ってつくればどうかとか、色んな意見が多分出てくる可能性もあります。けれども実際には、平成17年に維孝館中学校が建築されていますので有効活用という問題、それから、隣接する住民グラウンドの活用が出来るという事を考えた時には、より内容、中身のほうにお金をかけることができる。

それから、一番保護者の中で心配されているのは、通学がどうなのかという、25年度のアンケート調査もありましたけれども、そのたたき台をつくるにも、やっぱり場所を確定しないとイメージがつかれないというような事も実はあります。

そういう点を考えていったときに、私自身もやっぱり維孝館中学校を有効に活用して、そして、住民グラウンドのところも活用しながら教育ゾーンとして、今現在、維孝館中学校の教育活動で住民グラウンド、住民体育館、住民プール、文化センター、特に図書館とか、さざんかホールも含めたものも文化センターで活用しているところです。そういう中でいうと、新たな統合小学校、それから中学校においても、この教育ゾーンとして学校教育施設としての、また社会教育施設の両方の視点からの活用ができるのではないかなという事で、この部分のものを持って、維孝館中学校ということをもって、住民の方に案として掲げてはどうかと私自身は感じておるところです。

○大嶋委員 今、教育長から言われた部分で、そのゾーンの中で何が出来るのかということをやっぱり書き込んだり、もっと町民の人にわかりやすい、例えばイラストでも何でも構わへんから、そういうようなところで活動している子ども達とか、そういうものが見えやすいような形にして、啓発をしたら理解は得られるじゃないか。文字だけではなかなかその辺のところはやはり、こういうことができますよという具体例を出していくことが大事かなという。

それと、先ほど言いましたけれども、僕の考えでは、もう昭和22年に出ているんですね、これ答えは、実は。今、教育長が37回と言われたんですけどけれども、実はこれ決裂して、田原小と青谷とくっついて中学校をつくろうとか、そういう説があって、それできへんとまた今度、よりを戻して、最終的に維孝館のあの場所になった。あれは人口的な中心の場所です。ハートの町の中心は、もっと奥のほうです。宇治田原小よりの方です。だけど、やっぱり人が通うところやから、人のいるところ中心であの位置になった。そういう事が37回分裂しながらとかして出ているから、僕自身としては、もう結論はそこで出ているなど。

だから、例えば極端な話は、維孝館中学校を潰してあそこに新たな理想的なものをつくるというのも、僕は財政的に許せばあってもいいのかなというふうに思いますけれども、それは夢物語やと思いますけれども、場所的にはあの場所かなと。色んな面でそういうようなありますし、交通機関のところでも近いですし、路線バスを使うにしても便利で、そういう面では非常に展開しやすい場所ではないかなと。

○光嶋教育部長 そのことに関しましては、やはり通学といったことを考えた時に、偏っ

た場所に持っていきますと、それなりに反対側のエリアにいる子ども達には負担がかかるので、大嶋先生がおっしゃったように、ちょうど町の中心にあるという事については、僕も同じように70年前に答えが出てあるというふうに思っています。ただ、そのことを事務局サイドで懸念しますのは、ありきかというふうに言われると、非常に回答に窮するというところがありますので、そのあたりはロジックを積み上げて、きちんとした説明をしなければならない。その中で、先ほどより、各先生方から出ておりますよりよい施設にする、よりよい教育内容にする、それがためにはこれが必要だという事のロジックを積み上げれば、もちろんその要素としては通学問題も一つとして当然出てくるんですけども、おのずともうここしかないんじゃないかと、それがその敷地の中か、隣に買いますかは別として、大きな意味で位置としてはもうここしかないよという事のご意見が教育委員の先生方から賜ることができましたら、我々としても非常に心強く、次に住民説明、あるいは議会の説明なんかに入っていけるというふうなところで、本日この学校施設の整備の在り方という事についてお願いしたところですので、そういう観点から言いますと、今、各先生方のご意見は非常に我々にとってはありがたいご意見だなというふうに感じるところでございます。

○清水課長 そうしましたら、学校施設整備の考え方ということにつきましては、各教育委員の先生方はほぼ一致したご意見をいただいたというふうに考えておるところですけども、いかがでしょうか。それでよろしかったでしょうか。

ありがとうございます。

○大嶋委員 僕の個人的なあれですけども、教育関係を取り巻く現状というのがありますね。今、教育にこういう課題があるから、それをクリアするためにこの小中一貫の分をやっているという事なので、田中委員からありましたように、今度、評価基準的なものということがあった時に、それはここへ戻っていくんですね。こういう現状をクリアするためということになってくるので、それ全部とは言いませんけれども、幾つか大きいもの、これとこれ、これをクリアするためにこの制度で、こういうので、建物をここにつくりながら、制度をこうしてやっていくんやというようになってくると思うので、この現状の分を少しそういう観点で見直されて、もう少し整理した、違う言葉でもいいですし、したほうがやりやすくなるんじゃないかなと思いました。

○清水課長 ありがとうございます。

そうしましたら、時間のほうも1時間を超えてまいりました。今、この議題となっております学校施設整備の考え方につきましては、このあたりで終了させていただきますし

て、最初に言いましたように、その他のところで各委員の先生方から何かございましたらお願いしたいと思います。

○山本委員 全体的なスケジュール、今後の進め方をちょっと具体的にはわかる範囲内で教えていただけませんか。今後の総合教育会議。

○光嶋教育部長 本日、総合教育会議で今、先生方からご意見を頂戴したものをもとに、まずは町議会のほうにこういう考え方で進めたいということで、総合教育会議の答えを出していただきましたということの報告を致します。予定と致しましては、7月23日に予定をしております。それを受けまして、先ほどより出ております、なぜこの場所なのということのロジックをきちんと整理した上で、やはり住民の方の説明に入らなければいけないと。これについては、どれだけ回数を重ねればいいというものでもないと思っておりますので、まず基本的には各学校単位に3回程度をまずはやってみたいなど。そこでご意見をいただく中で、いろんなご意見があろうかと思っておりますけれども、それをできましたら、夏から秋口ぐらいに取り組んでいきたいというふうに思っております。

そういった事の中で、色々なご意見が出てきて、それをきちんとした説明ができるような我々としての整理も必要かと思っておりますので、それが出来れば、まずは年末を目途に、また教育委員会を経まして、総合教育会議をお願いしたいなど。それで、また議会の方にも報告を致しまして、次年度以降の必要とあらば予算対応について検討していきたいと、そういったことをもとに最終的な結論と致しまして、年度末に3回目の総合教育会議をお願いできればというのが、事務方としての考えとして持っております。

以上でございます。

○清水課長 よろしいでしょうか。

ほか、何かございましたら、お願いしたいと思います。

○杉野委員 学校設備については、これで今日はいいんですけれども、1点だけ、保護者の方からなんです、小中一貫教育って一体、何してんのという話を未だにまだ声を聞くことが多いんです。私もわかる範囲で答えているんですけれども、やはりまだまだ保護者の中ではわかっておられない方がたくさんいらっしゃるんだなという事が、PTAの役員をやっていることがとてもたくさんあります。なので、もう少しこの小中一貫教育というものをこういうふうにしていて、こうなっていますよ。だから、こうなっているんですよという、先ほど田中委員さんもおっしゃっていたような評価というものを町のほうから出していただくことも必要かなと考えています。

一体何が小中一貫なのと聞かれた時に、何がと言われるとううんと答えるしかなくて、

今こういうことでやっているよ、小学校が中学校に行ったりしているよ、中学校の子が小学校に来たりしているよ、こういうふうにやっているよということが教育なんやけれどもという話はするんですけども、もっと保護者としたら、いや中学校の勉強ができたりするのとか、そういう一連の流れというものが変わっているのかどうかということがわからないという人がとてもたくさんいらっしゃるんですね。だから、これから施設一体型として新しくつくっていく時にそういうこともやはり住民さんに説明するだけではなくて、実際子どもを通わせるのは保護者なので、やっぱり保護者にわかるように伝えていけるような方法を考えていただけたらありがたいなと思います。

○光嶋教育部長 先ほどちょっとすみません、一つ言い漏らしました。山本先生のご質問に言い漏らしたことがございまして、今度の議会の報告等が終わりましたら、やはり住民の方向けのアナウンスとしては必要だというふうに思いますので、8月号の「町民の窓」には、こういう方向でいったことの活字にしたもの、これはお出しするつもりで今、予定はしております。

そうした中で、今、杉野先生がおっしゃっていただいた部分、ずらっと書くとどうしても紙面が足りなくなるので、エッセンスの部分にはなりますが、そういった部分も改めてこういうことですよといった事も踏まえて、ペーパーの中にまとめることが必要だというふうに今、感じましたので、それはまたうちのほうでつくるときにはさせていただきます。

それとあわせて、やはり広く町民の方向けには「町民の窓」でいいんでしょうが、たとえ同じものになったとしても、保護者の方向けに学校を通じてこういうことですよというふうにお届けしたほうが、次の説明会するにしても何にするにしても絶対に効果はあると思うので、そのあたりはまた考えさせていただいて、対応をさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○杉野委員 これをやっていきますだけではなくて、それで子ども達が結構小中一貫になってから大分経つと思うんですけども、どう変わってきたのかということも踏まえてお知らせいただけたらありがたいです。

○光嶋教育部長 わかりました。

○清水課長 その他どうでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局、よろしいですか。

それでは、意見のほうも出尽くした内容でございますので、最後に西谷町長よりまと

めをお願いできたらと思うんですけども、よろしく申し上げます。

○西谷町長 長時間にわたりましていろんなご議論をしていただき、また忌憚のないご意見をいただきましてありがとうございます。

小中一貫という中で、今、2小学校、1中学校の中の取り組みを以前からずっとやっ
ていただいております。私の子どもは、長男がもう32歳ぐらいになっておりますけれ
ども、一番下が大学卒業したてというので十何年間、間がある中で、PTAのほうもや
らせていただいている中で、今の学校の現状また中学生の状況ということを見させてい
ただいております中に、やはり本当にそういう色んな連携ぐらいにまでまだ行っていな
いのもかもしれませんけれども、中学生に対する小学生の尊敬する念とか、中学生が小学
生を思いやりを持って接するとかいうことは本当に出てきていると思います。大変中学
生も優しく、下の面倒を見るというそういう傾向にも大変なってきたらと、僕はもう
肌で感じております。学校公開でもよく中学校とか行ったり、それでまちづくりの観点
からも色んなことを中学生の意見を聞く中で、本当にそういう子どもたちのレベルは大
変上がっているなど。それで、ふるさと、宇治田原を思う気持ちも大変レベルが上がっ
てきていると、これは今までの小中一貫という取り組みの僕は成果やというふうには思
っております。そういうこともまた住民さんらに、保護者に発信していく事が、また理
解をしていただく、僕は一つだというふうに考えておるところでございます。

今日の会議は、本当に今後の学校施設の整備の在り方について、本当に根幹をなす議
論をしていただいたというふうに思っておるところでございます。本町の地理的条件
や財政面、そういった面もやはり考慮はしていかなければなりませんけれども、平成
29年3月、これが方向性をお示しさせていただきました。平成30年3月には、一応
スケジュールというか、目途、目標を立てたスケジュールをお示しさせていただく中で、
やはり中学校に小学校があるというのが、僕は理想の現状であろうかというふうには思
っておるところでございます。そういったことを十分に保護者の皆さんや住民の皆さん
に説明できるような材料をこれからしっかりとつくっていかないとというのが現状や
と思います。まずは位置関係、これについてもどういう形の位置にそういうものをつく
っていくのか、建物を合体したようなものにするのか、そういったことも、細かい事も
やっぱり住民説明をする中では必要になってこようかというふうに思っておるところで
ございます。その辺についてもしっかりと取り組んでまいりたいというふうに思います
し、また、私も1人ですけども、おらが学校という部分がやっぱりございます。地域
の学校、地域の光、これは奥山田小学校でもございましたようです。ただ、やっぱりこ

れだけすばらしい学校をこれからつくろうとしているんですよということが、一つの理解をしていただくことであろうかというふうに思いますし、当初にも申し上げましたけれども、選ばれる学校、行かせたい学校という維孝館中学校をつくり上げる事が一番大切であり、これは本町のまちづくりにも本当に寄与していくものと私自身も考えておるところでございます。こうした状況をしっかりとまたご議論をさせていただく中で、施設の位置、また学校施設の規模を決定するための作業を今後してまいりたいというふうに思っております。

教育委員会におかれましても、教育的観点から議論をいただきまして、将来の宇治田原を担う子ども達のために、よりよい教育環境ということは皆さん同じ思いを僕は持っていたいただいていると思いますので、今後ともお力添えを賜りますようによろしくお願ひしたいと思ひます。

本日のこういうご議論の結果を踏まえまして、議会のほうにも文教厚生常任委員会にも報告をする上で、住民さんの意思、意向、またはそういうことを把握するためにも住民説明会を今後してまいりたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしくお願ひを申し上げます。

それで、以前にも申し上げましたけれども、やっぱり小学校を1つにしようとしているその見える化というの、同時にやっぱりやっていくべきであろうかと。しょっちゅう小学生を中学校に送っていくとか、中学生を小学校に送っていくとか、そういうことじゃなくて、1学期に1回でもいいですから、そういう合同で何かしましょうという取り組みも必要かなというふうに思っておりますので、事務方におかれましてもそういうことも念頭に置いていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひを申し上げます。

今後とも色んな住民さんのご意見等々も教育委員の皆さんも聞かれると思ひますけれども、そういうことは情報共有ということで、逐次、教育委員会のほうにもご報告いただけますようお願いを申し上げます、この小中一貫がスムーズに進みますようにご理解、ご協力賜りますようお願いを申し上げます、まとめとさせていただきます。本日はありがとうございました。ご苦労さまでした。

○清水課長 ありがとうございます。

皆様には長時間にわたりまして活発なご議論をいただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、以上をもちまして第1回目となります総合教育会議のほうを終了させてい

ただきたいと思います。本日は大変お忙しい中、どうもありがとうございました。